

## 旭川大学短期大学部 生活学科生活福祉専攻の軌跡

令和2年度 図書紀要委員会 島 崎 一 行

本学、生活学科生活福祉専攻の前身は1964年（昭和39年）旭川女子大学家政科の設置に始まり、後に食物栄養専攻、幼児教育学科が増設され、その間1987年（昭和62年）に旭川女子大学家政科を生活学科に変更、2002年（平成14年）に旭川女子短期大学部生活学科生活福祉専攻に改組され、2011年（平成23年）男女共学化により、旭川短期大学部生活学科生活福祉専攻と改称された。しかし、新設された保健福祉学部コミュニティー福祉学部との競合等の理由により2019年（令和元年）を以て募集停止、翌年2020年（令和2年）閉科に至った。当初の女子教育の発展（女性の自立、社会進出）という意味（スローガン）に於いては食物栄養専攻、幼児教育学科も同義と言える。所謂生活学科生活福祉専攻は旭川大学短期大学部の母体であり半世紀以上もの間、地域に貢献する人材の排出に全力を注いできた。詳細は以下の通りである。

### 【教育課程の変遷】—生活文化専攻の2コースの設置—

昭和39年の開学以降、本学の家政学科は家庭経営の基礎的学習をカリキュラムの中心に置いてきた。衣生活論、食生活論、住生活論、生活文化論、生活構造論、健康生活論の各生活論を中核に、その周辺に消費生活経済論、情報処理機器の操作演習などを配した。更に、日本短期大学秘書士育成協会が定めた諸科目を履修することによって「秘書士」の資格を習得できる「秘書士養成課程」を設置した。秘書士概論、秘書実務を始めとするいくつかの単位を習得すると学生は卒業時に「秘書士」資格を習得することができる。卒業生がO A化のすすむ職場で働く機会増加した社会的変化に対応したものである。しかし、昭和50年代後半以降、以下の理由でこれまでのカリキュラムを根本的に改革する方法をさぐりはじめた。これは第一に、拡散し

すぎた科目群を整理して学科全体の教育目標の焦点をはっきりさせる必要があること。第二に社会の変化とそれに対応した多様化した教育ニーズにこたえるために、より新しい科目群を開設し、カリキュラム全体を再編する必要があること。このような基本的な考え方にそった準備を整えた上、昭和60年度から大幅な改革を伴った新しいカリキュラムを導入した。新カリキュラムの特徴は専攻の中にコース制を導入し、二つのコース設置したことである。ひとつは「生活教養コース」、いまひとつは「生活デザインコース」である。「生活教養コース」はコース必修科目に、社会福祉、生活福祉、高齢化社会論の福祉論系科目、消費者化学、流通し消費、マスメディア論、生活と法律の消費者保護論と消費者経済論、更に近代女性史、女性と労働の女性論系科目をおいている。このコースは以上のような福祉論、消費者論、女性論を中心にコースの必修科目を組み、女性が家庭人としても又職業人としても生きてゆくために必要な基礎教養科目、文化論を学ぶことになる。「生活デザインコース」は、コースの必修科目に、生活文化史、衣科学、被服構成学、被服構成実習、ファッションリサーチ、住居学、スペースデザイン、生活デザイン、生活造形実習を置いた。衣生活論系科目、住生活論系科目の講義と実習、更に旭川市を中心にした道北地方に古くから根付いている伝統的な工芸文化である陶芸、木彫を実習科目として取り入れている。本コースはこのようなコース必修科目の設定によって、学生は新しく再編された衣・住を中心とした家庭管理の方法とその実際を実習で学ぶことができる。更に、2コース共通の必修科目として家政学論を始めとする22単位、11科目を置いた。また生活と宗教、生活と環境などの時代の変化に対応した新しい選択科目を開設した。かくし

て学生は本学を受験する時に、2コースのいずれかを選ぶ。入学後は、それぞれ自分の所属するコース必修科目を中心に焦点の定まった新しいカリキュラムを実習できるようになった。

〔旭川大学女子短期大学部三十年史より P126～127 1993 -平成5年- 11月25日発行〕

2002年（平成14年）より生活文化専攻から介護福祉士の養成課程に焦点を定め旭川女子短期大学部生活学科生活福祉専攻に改組され2011年（平成23年）男女共学化により現在の旭川短期大学部生活学科生活福祉専攻に至る。これらの変遷は建学の精神である「地域に根差し、地域を拓き、地域に開かれた大学」に沿った自立できる人材養成であり、この科の社会ニーズは特に時代変化の影響を伴うものであったが、その価値は脈々と卒業生に受け継がれている。